

「有馬48滝観察会」の記録

記録: 並木

- 1.日 時 2016年(H28年) 2月 4日(木)
- 2.集合場所 阪急宝塚駅前バス乗り場 午前9時15分集合
- 3.参加者 14名(児玉, 浅野, 中東, 大石, 後藤, 坂根, 日景, 金戸, 畠中, 前野, 前窪, 藤井, 杉谷, 並木)
- 4.目的 神戸・阪神市街地の背後に連なる東西30Kmの細長い六甲山系にある有馬48滝の, 鼓滝, 七曲滝, 百聞滝, 似位滝を探勝・観察する。
気温頼りであるが, 氷瀑の迫力を鑑賞する。
登山道の氷結を予想し, アイゼンを持参うえ歩行の経験を積む。
江戸末期から明治初期に掛けての伐採でハゲ山化し, 土砂災害が頻発し, 為, 治水の目的で, 明治28年より広葉樹林を中心とした緑化事業が推進され, 今日に至っているが, これによる変貌を観察する。

5.行程 及び 記録

- ・9時27分: 宝塚発・阪急バス75
- 10時17分: 有馬温泉バスターミナル着
- ・10時30分から
バスターミナルを出発
鼓滝を探勝; 鬱蒼とした木々の間からポン! ポン! と鼓を打つかのような軽やかな落水の響きが滝壺から聞こえたことに由来する名称である。
七曲滝への道中で崖崩れがあり, 通行止めとなっており, 工事管理者とTVクルーが立ち会っていた。
この為, 以降の徒行スケジュールを変更することにした。
- ・11時40分: 「六甲有馬ロープウェー」で六甲山頂駅へ向かう。
(往復 1,820円×シニア20%割引≒1,450円で乗車) 15分間の素晴らしいパノラマで, 樹林では特にアカマツ(クマツより大気汚染に弱い)が目立った。
山頂駅のレストランデッキで, 陽だまりの気持ちのいい中, 眺望しながら座り込んでの昼食タイムをとった。
- ・12時50分から
昼食後は六甲山最高峰を目指すこととした。
但し, 時間の許される範囲の距離迄とし, 無理な場合は途中で引き返すと言う事を出発した。
健脚組? ×5名が最高峰 931.3mまで踏破した。
(時間を読み誤り40分間掛かり 13:30到着)
頂上周辺は携帯が圏外で後続組×9名との連絡がしばらく取れず, 結局ロープウェーと徒歩の2組に分かれて下山した。(引き返しのロスタイムを考慮して判断)
- ・14時30分: 温泉街に下山到着。
全員「金の湯」に直行。 強塩泉の為, 鉄分が酸化した赤茶色の濁り湯で, 冷えた体を温め, ほぐした。
(650円/人だが, 11枚綴りの回数券 5,500を利用して 532円/人とした→会費からの負担とした)
- ・15時30分から
ビアホール風「グリル六甲」で打ち上げ会。
当グループの会にピッタリの「ハイカーセット」(ワンプレートディッシュ+生ビール=1,000円)が有り, 反省会も含めて大いに盛り上がった。





・16時45分
バスターミナルで解散。
二手に分かれて、バスで家路につきました。

6.まとめ

期待していた氷瀑は1月26日には見学できたとの情報があったが、その後の気温上昇で溶け始め、見る事が出来なかった。又、アイゼンによる歩行経験も次回持ち越しとなった。

通行止めというアクシデントで、行程を変更することになったことと、山頂からの下山のタイミングを徹底出来なかったことは、幹事の反省材料です。

気候は晴れで、平均5～8℃のなか、気持ち良く散策出来たこと、又、濁り湯温泉で保養し、ビアパーティーで打ち上げた有意義な一日でした。

〈追記〉来期、何回かに分けて六甲山系を踏破しては、という話が多数出ました。
(私見ですが、森/源流のテーマとしても使えるのでは？と思われます)

〈担当:児玉, 前野, 畠中, 並木〉